

「匠の品 多くの人々に」

9/14 ウィルコム沖縄社長 仲本さん

国展の魅力語る



沖縄の陶芸の魅力を語る
ウィルコム沖縄の仲本榮章社長=那覇市旭町の同社

「90回記念国展工芸沖縄—黎明から現代 匠の系譜」が13日、県立博物館・立壺屋焼物博物館友の会の初代会長で、陶芸に詳しい

琉球が1616年に薩摩から朝鮮人陶工の『一六〇年で400年。壺屋焼物博物館や首里城公園でも400年祭や企画展を開催する年だ。そこで国展が開催されるのは非常にタイミングで、多彩な上品に期待する』

「本土と沖縄の陶芸家の交流について。」

「沖縄の陶芸の素晴らしさを全国に広めたのが、濱田庄司や芹沢鉢介など本土の陶芸家だ。特に濱田のろくろや絵付けの技法は、人間国宝の金城次郎に大きな影響を与えたといわれる。」

濱田は沖縄滞在中、「きび紋」と呼ばれる赤い色を大胆に配した表現方法を生み出した。壺屋の陶工にも広がるなど、本土と沖縄の陶芸家は互いに影響を与えてきた

「作品の魅力について。」

「沖縄の伝統工芸品のほか、濱田や世界中の陶芸家に影響を与えたといわれるバーナード・リーチなど、沖縄に縁の深い人の作品も並ぶ。90年記念展にふさわしく期待している。また、沖縄の陶工では新垣栄三郎や金城の存在感あふれる作品も並ぶ。濱田の作品と見比べると影響し合ったことが分かる。『黎明から現代』の題名通り、先人の作品を多くの人に見てほしい」